

●人狼知能プロトコル の仕様 (ver2.00, 2017 年度版)

文責：大澤 博隆

1. word (単語) : 意味の単位

[subject][target]: エージェント Agent0~

[role]: 役職 (VILLAGER, SEER, MEDIUM, BODYGUARD, WEREWOLF, POSSESSED) 6 種

[species]: 種族 (HUMAN, WEREWOLF) 2 種

[verb]: 動詞 13 種

[talk number]: 発話番号

※[talk number] は [day number]と[talk\_id]で構成される

2. sentence (文): 一つの sentence は複数の word で構成される 13 種

2.1. 意図表明に関する文 (役職推定、役職カミングアウト) 2 種

[subject] ESTIMATE [target] [role]

[subject]が[target]を役職[role]であると推測する

[subject] COMINGOUT [role]

[subject]が役職[role]であると宣言する

2.2. ルール行動・能力に関する文 (占い、護衛、投票、襲撃) 4 種

※2017 年から追加された構文 2 つ

[subject] DIVINE [target]

[subject]が[target]を占う

[subject] GUARD [target]

[subject]が[target]を守る

[subject] VOTE [target]

[subject]が[target]に投票する

[subject] ATTACK [target]

[subject]が[target]を襲撃する

2.3. 能力結果に関する文（占い結果、霊能結果、護衛結果） 3 種

[subject] DIVINED [target] [species]

[subject]が[target]を占った結果[species]である

[subject] IDENTIFIED [target] [species]

[subject]が[target]の霊能結果が[species]である ※2017 年より表現が変更。【従

来の INQUESTED は廃止】

[subject] GUARDED [target]

[subject]が[target]を守った

2.4. 同意に関する文（同意、非同意） 2 種

[subject] AGREE [talk number]

[subject]が[talk number]番目の発話に同意

[subject] DISAGREE [talk number]

[subject]が[talk number]番目の発話に非同意

2.5. 発話制御に関する文（終了、スキップ） 2 種

[subject] OVER

[subject]がもう話すことはない

[subject] SKIP

[subject]がいま話すことはない

各構文は動詞の前に、文の対象となる主語[subject]を記入できる。ただし、[subject]は省略可能であり、その場合は対象が文脈により決定する。発話者の発言の場合は、主語は発話者となり、そうでない場合には主語は不定である（該当する全ての人物を表す）。

3. operator(演算子)：文同士の関係性を表す

[subject] REQUEST ([sentence])

[subject]が[sentence]を要求する

各構文は演算子の前に、演算子の対象となる主語[subject]を記入できる。ただし、[subject]は省略可能であり、その場合は対象が文脈により決定する。発話者の発言の場合は、主語は発話者となり、そうでない場合には主語は不定である（該当する全ての人物を表す）。

※ 2017/1 の仕様では、operator 文は入れ子構造を作らない。したがって、request(request(...))といった表現は許可しない

#### 4. 文法

- 発話の一つ以上の **sentence** で構成される
- **sentence** は丸括弧で区切ることができる
- **sentence** の前に **operator** を付与することができる
- **operator** は **operator** の種類によって、それ以降に続く **word** および **sentence** を規定する
- **operator** 以降に続く **sentence** は丸括弧で区切られる
- 主語[**subject**]を必要とする。ただし、[**subject**]は省略可能である。その場合の主語は発話者と同じとみなされる。

#### 5. 文例

##### COMINGOUT SEER

占い師であると宣言する

##### Agent0 COMINGOUT SEER

Agent0 が占い師であると宣言する

##### DIVINED Agent1 HUMAN

Agent1 を占った結果、人間であった

##### Agent0 DIVINED Agent2 WEREWOLF

Agent0 が Agent1 を占った結果、人間であった

##### REQUEST (Agent2 DIVINE Agent3)

Agent2 に Agent3 を占って欲しい

##### GUARD Agent2

Agent2 を守る

##### Agent1 REQUEST (Agent0 GUARD Agent3)

Agent1 は、Agent0 に Agent3 を守って欲しい

## 5.1. request 文の解釈について（補足）

### ●意図表明に関する request 2 種

#### REQUEST ([subject] ESTIMATE [target] [role])

- subject がある場合  
「[subject]が[target]を役職[role]であると推測する」ことを要請する  
→「〇さん、×さんが狂人だと思ってもらえませんか」
- subject がない場合  
「[target]を役職[role]であると推測する」ことを不特定多数に要請する  
→「(みなさん) ×さんが狂人だと思ってもらえませんか」

#### REQUEST ([subject] COMINGOUT [role])

- subject がある場合  
「[subject]が役職[role]であると宣言する」ことを要請する  
→「〇さん占い師宣言しませんか」 ※狼同士の会話や人間同士で使用
- subject がない場合  
「役職[role]であると宣言する」ことを不特定多数に要請する  
→「占い師宣言しませんか」 ※占い師 CO の誘導

### ●ルール行動・能力に関する request 4 種

#### REQUEST ([subject] DIVINE [target])

- subject がある場合  
「[subject]が[target]を占う」ことを要請  
→「〇さん、×を占いましょう」
- subject がない場合  
「[target]を占う」ことを要請  
→「×を占いましょう」

#### REQUEST ([subject] GUARD [target])

- subject がある場合  
「[subject]が[target]を守る」ことを要請  
→「〇さん、×を守りましょう」
- subject がない場合  
「[target]を守る」ことを要請  
→「×を守りましょう」

### REQUEST ([subject] VOTE [target])

- subject がある場合  
「[subject]に[target]に投票すること」を要請する  
→ 「○さん、×さんに投票して欲しい」
- subject がない場合  
「[target]に投票すること」を要請する  
→ 「×さんに投票して欲しい」

### REQUEST ([subject] ATTACK [target])

- subject がある場合  
「[subject]が[target]を襲撃する」ことを要請する  
→ 「○さん×を襲撃しましょう」
- subject がない場合  
「[target]を襲撃する」ことを要請する  
→ 「×を襲撃しましょう」

### ●能力結果に関する request 3 種

#### REQUEST([subject] DIVINED [target] [species])

- subject がある場合  
「[subject]が[target]を占った結果[species]である」ことを要請する  
→ 「○さん。×さんを占った結果、狼だって宣言して欲しい」 ※狼同士の会話で使用か
- subject がない場合  
「[target]を占った結果[species]である」ことを不特定多数に要請する  
→ 「×さんを占った結果、狼だって宣言して欲しい」 ※狼同士の会話で使用か

#### REQUEST ([subject] IDENTIFIED [target] [species])

- subject がある場合  
「[subject]が[target]の霊能結果が[species]である」と要請する  
→ 「○さん、×さんの霊能結果が人間だとして欲しい」 ※狼同士の会話で使用か
- subject がない場合  
「[target]の霊能結果が[species]である」と要請する  
→ 「×さんの霊能結果が人間だとして欲しい」 ※狼同士の会話で使用か

### REQUEST ([subject] GUARDED [target])

- subject がある場合  
「[subject]が[target]を守った」と要請する  
→ 「〇さんが×さんを守ったと言って欲しい」 ※護衛先明示欲求
- subject がない場合  
「[target]を守った」と要請する  
→ 「×さんを守ったかだれかに言って欲しい」 ※護衛先明示欲求

### ●同意に関する request 2 種

#### REQUEST ([subject] AGREE [talk number])

- subject がある場合  
「[subject]が[talk number]番目の発話に同意」することを要請  
→ 「〇さん、～って発言を認めてください」
- subject がない場合  
「[talk number]番目の発話に同意」することを要請  
→ 「～って発言を（みなさん）認めてください」

#### REQUEST ([subject] DISAGREE [talk number])

- subject がある場合  
「[subject]が[talk number]番目の発話に同意しない」することを要請  
→ 「〇さん、～って発言を認めないでください」
- subject がない場合  
「[talk number]番目の発話に同意しない」ことを要請  
→ 「～って発言を（みなさん）認めないでください」

### ●発話制御に関する request 2 種

#### REQUEST ([subject] OVER)

- subject がある場合  
「[subject]が発話を終了すること」を要請  
→ 「〇さん、もう発言やめてください」
- subject がない場合  
不特定多数に対し「発話を終了すること」を要請  
→ 「(みなさん) もう発言やめましょう」

## REQUEST ([subject] SKIP)

- **subject** がある場合
  - 「[subject]が発話を一時スキップすること」を要請
  - 「〇さん、ちょっといったん黙って」
- **subject** がない場合
  - 不特定多数に対し「発話を一時スキップすること」を要請
  - 「(みなさん) ちょっといったん黙って」